

# 出版ERP×教科書選定DB 連携プロジェクトでセミナー

光和コンピューターとNTT EDX、大日本印刷は8月8日、大学教科書採用・購入の促進に向けた「教科書選定DB 第2回セミナー」を「専断書」の現在地へ出版情報の活性化・流通促進のために開催した。今後予定している実証実験への協力などを呼びかけた。

## 来春の大学教科書 販売に向け実証実験

セミナーは会場とオンライン「教科書販売の現状と課題」のハイブリッドで開催。出版社85社をはじめ98法人から168人が参加。第一部で紀伊國屋書店の教科書販売支援センター長の竹林一夫氏が「提案」を行った。

## 紙、電子、PODで 教科書提供を

冒頭、光和コンピューター・寺川光男社長が「出版社基幹システムをつなぐ版社には紙、電子、PODの3つでコンテンツを大学教員や生徒に展開することが問われている。それを実現するために教科書選定DBは、なくてはならない業界インフラ。NTT EDXと

紀伊國屋書店・竹内ゼンター長は、大学教科書販売について、かつての対面販売からオンライン販売への変化がコロナ禍

で急激に進んでいる状況や、大学教科書販売の特殊性や課題などについて報告。課題解決のため、個配から学校への一括発送、電子教科書への切り替えなどを進める必要があるなど指摘した。

続いて、教科書選定DBを提供するNTT EDXの盛田宏久氏が、教科書選定DB・電子教科書Unitex配信事業について説明し、出版社や学生の声を紹介。紙版教科書の場合、出版社からは用紙高騰の影響や、少数数

で対応できない、重版が苦慮している、フリマアプリの影響、POD対応などの声があり、学生側は授業がレジュメ中心になってきていることや、紙と電子への希望が拮抗している点などを報告

した。野田室長は、3社で連携する「出版ERP×教科書選定DB」プロジェクトについて、「当社はDBに販売支援ステータ出版社の書誌データ・販促データ・在庫データなど説明。

## 刊行予定情報や 在庫状況も反映へ

教科書選定DBで、刊行前の刊行予定情報を表示して教員が選定に役立てたり、在庫状況から電子教科書、紙教科書、POD教科書それぞれを推奨することなどが可能になると述べた。

3社は2024年春の教科書販売期に向けて、倉庫会社、出版社と連携して実証実験を予定。野田室長は「9月には実験の準備に着手する」と述べ、セミナー参加出版社に向けて実証実験への参加を呼びかけた。

最後に、NTT EDX代表取締役社長の金山直博氏が「紙・電子にかかわらず大学教科書が使われなくなっている事実がある。電子はもちろん、紙も含めて教科書を利用いただくことを出版社、教科書販社と考えるかなければならない。電子教科書採用によって購入率がアップしている事例もある。いかに紙と電子のバランスをとるかなどを考え、業界全体として採用率、購入率を高めていきたい」とあいさつした。

3社は今後、10月に第3回、12月に第4回のセミナーを予定している。



会場とオンラインのハイブリッドで開催した